

○コロナ禍の衝撃：今改めて まちの誇りと伝統の継承を考える

昨年 11 月、衝撃的なニュースが静かに伝えられました。毎日新聞社が実施したアンケート調査結果によると、都道府県が指定する祭りなどの無形の民俗文化財のうち、担い手不足などによって指定を解除したり休止状態になっていたりするものが 31 県で計 102 件に上ることが明らかになつたというのです。記事では、その原因として大半は高齢化や若者人口の減少が挙げられており、「人口減少社会の中で民俗の継承がいかに難しいかが浮き彫りになった」というのです。このニュースは、国指定の重要無形民俗文化財の担い手である私たちにとって非常に大きなニュースであります

が、これが世間で大きな噂となつた、あるいはマスコミ各社が大きく取り上げた、ということはなかったように思います。記事では少子高齢化や若者人口の流出の問題を念頭に人口減少社会にその原因を求めていますが、そのこと自体は今に始まったことではなく、古くはすでに平成の時代から声高に呼ばれ続けてきた社会問題です。今改めて人口減少だけが問題となって、このような急激な変化は起こらないのではないかとも考えます。

やはり背景には、いわゆる「コロナ禍」という長く暗いトンネルが 3 年以上に亘って続いたことも大きく影響しているように思います。見付天神裸祭でも、特に子供連の様子は、令和元年のそれと令和 6 年とでは明らかに様子が変わってきています。急速に褲・腰蓑のいでたちで参加する男子児童が減っている現状があります。また今の中学生 (特に 2、3 年生) は、小学校 5、6 年生という裸祭子供連で一番活躍し、一番楽しい時代をコロナ禍で過ごしており、祭り・伝統行事だけでなく、学校の運動会や修学旅行 (宿泊学習) も他の世代とは異なる自粛モードで過ごしているのです。これはもちろん誰の責任ではないけれど、これから時代を担っていく人材となる彼らが、自分のふるさとに親しみをもって人生を楽しむことができるようになるためには、彼らのご両親も含め、私たち周囲の大人もこのような問題から目を背けずに、ふるさとに親しみをもって人生を楽しむことができる環境を準備してやることが必要と考えます。

昨年の別の記事では、茨城県が人口減少に伴う担い手不足などに苦しむ祭りを支援しようと、歴史的にも文化的にも価値の高い県内 5 つの祭りに補助金を交付したとありました。記事のとおり、文化財保護を目的とした祭りへの補助制度は都道府県では初めての試みでありますが、これにはまだ課題がありそうです。人によつては、「政教分離」の原則を持ち出し、祭り・伝統行事を宗教行事の一環と捉えて異議を述べられる方もおられるでしょう。しかしそこには、祭り・伝統行事が果たして宗教組織 (教団) によってのみ支えられているものかどうかという問題があります。

というのも、本来は、祭り・伝統行事というのは、地域の自治組織の中において近隣で助け合う「共助」が担ってきた生活文化そのものであり、宗教というよりは、人々の心の拠り所あるいは信仰によって支えられ、組織化された教団が基盤になるのではなく、地縁によって緩やかに構成された地域社会の自治組織が基盤となつているものだからです。いずれにせよ、だからといって、これに「公助」の支えを注入するのは果たして正しい選択といえるかどうか。

今私たちは時代の分岐点に立っているように思います。見付天神裸祭が永く将来に亘って、子供たち、孫たちに受け継がれていくために、今何が必要か。人口減少の問題だけでなく、価値観が多様化している現代社会において、あらゆる立場の人に受け入れられ、あらゆる見付住民にとって生きる喜び、楽しみ、誇りとなつて受け継がれていくために、考えを巡らせ、工夫を凝らす努力を続けてまいります。見付住民の皆様におかれましては、引き続きご協力賜りますようよろしくお願ひします。



○裸祭運営マニュアルの作成を始めました。

令和6年(2024)の見付天神裸祭実施を振り返り、祭り行事における今後の安全かつ安定的な伝統の保存と継承を確保するべく、磐田警察署の指導・助言を踏まえ、保存会の組織運営や交通規制のあり方、道中練りや鬼踊り時の境内の安全を確保する方策について「見える」化するために運営マニュアルの作成を、令和7年(2025)の祭典に向けて始めました。運営マニュアルは、一過性のものではなく継続的に運用するとともに、磐田警察署とも共有し、適切な交通規制と雑踏警備に活用するものです。作成と運用にあたっては、皆様のご協力をお願いする次第です。

構成	取りまとめ役	担当
組織と参加者登録	水野博人 (R6 西区梯団長)	R6 西中・東中・東各梯団長(実行部会/保存会理事)
道中練りの運行	鈴木道彦 (加茂川通自治会長・R4 西区梯団長)	R6 西・西中・東中・東各梯団長(実行部会/保存会理事)
境内の安全確保	伊藤兆彦 (実行部長)	崇敬者会(会長・副会長)、R6 西・西中・東中・東各梯団長(実行部会/保存会理事)
交通規制	小杉泰久 (自治会見付地区長・保存会副会長)	自治会見付地区/保存会理事(富士見町・権現町・宿町)
観客対応と境内放送	大石富士雄 (崇敬者会長・保存会顧問)	崇敬者会責任役員
総括・取りまとめ	中山正典 (保存会長)	保存会事務局員(大橋・松浦・渥美)

○裸祭フォトコンテスト結果発表

『見付宿たのしい文化展』の開催にあわせて見付天神裸祭フォトコンテストの授賞式を行いました。今回は応募作品がやや少なかったものの力作揃いでました。受賞者の皆様おめでとうございました。受賞作品は来年度ガイドブックに掲載させていただきます。

(令和6年(2024)10月26日)



○今後の予定

- ・次年度の各梯団長及び各祭組の実行部会員(警固長)・青年部員の名簿について、報告を済ませていない梯団・祭組の関係者の方は、人事内定後速やかにお知らせください。
- ・4月以降の保存会活動計画は現在関係機関と調整中です。詳細は関係者に別途お知らせします。